

議会報告会（令和5年度・上半期 事業）

開催日： 令和5年5月14日（日）、15日（月）

参加者： 市民62名、議員24名（※延べ人数）

実施方法： 対面方式

内容： 議会広報紙「議会のトビラ」を利用した議会からの報告、
テーマについての意見交換
①「どうなる？私の交通手段」（建設市民委員会）
②「考えよう！これからの地域防災」（総務企画委員会）
③「高齢者のあんき（安心）のために」（教育福祉委員会）

議員と話そう！

議会報告会

可児市議会は、広く市民の意見を聴くために議会報告会を開催しています。
今回は委員会ごとにテーマを設定しましたので是非ご参加ください。

あなたの
意見をお聞かせ
ください☆

テーマ① どうなる？私の交通手段

日時 5月14日(日) 午前10時～ 場所 市役所5階議会フロア
(担当:建設市民委員会)

テーマ② 考えよう！これからの地域防災

日時 5月14日(日) 午後2時～ 場所 福祉センターホール
(担当:総務企画委員会)

テーマ③ 高齢者のあんき(安心)のために

日時 5月15日(月) 午後1時30分～ 場所 福祉センターホール
(担当:教育福祉委員会)



テーマ①～③ 共通

- ・事前の申し込みは必要ありません。当日開始10分前までに会場にお越しください。
- ・各日、議員からの議会活動報告の後、テーマについて懇談します。
- ・今回は対面での懇談を基本としますが、ZOOMでの参加を希望される方は下記の問い合わせ先にご連絡ください。

【問合せ先】可児市議会事務局 電話 0574-62-1111 Eメール gikai-jimu@city.kanl.lg.jp

①「どうなる？私の交通手段」

(建設市民委員会)

開催日時	令和5年5月14日(日) 10時00分～11時30分	開催 会場	市役所5階
参加者数	市民など23人、議員9人(計32人)		
実施内容	テーマ「どうなる？私の交通手段」		
質疑および 主な意見等	<p>第一部 議会のトピラを用いて令和5年度当初予算審査を報告 第二部 テーマ「どうなる？私の交通手段」について意見交換</p> <p>1G 進行係：松尾 委員長 記録係：酒井 委員</p> <p>《令和5年度当初予算審査の報告について》</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆不登校生が増えている現状と外国籍市民との関係は？ ☆不登校対策は現在の後追いではなく予防する教育改革が必要。 ☆不登校即悪ではない、多様化を受け入れたから数字に出た？数字に出ない部分にも目を。 ☆可児の子はセンシビリティが強く反応が早いのかも知れない。 ☆掃除の仕方を家庭で教えず、学校で教えろと言われた。 ☆朝食を親の寝坊で食べられない子がいた。 ☆家庭と先生の連携が大切。 ☆教育方法に世代のギャップを感じる。 ☆自治会加入率が低下している。役員のなり手不足。 ☆自治会役員、消防団員を経験して大いに得るものがあった。 <p>《テーマについて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆高速バス名古屋便で名古屋へ勤めていたが、減便で乗れなくなった。観光路線になったと思っている。 ☆西可児から、さつきバス西部線に乗ったら貸し切り状態だった。 ☆可児市に転居してきた。バスの便数が少なく利用不可能。当初自転車、次に自動車にした、この地域で免許証返納は無理。 ☆現在は公共交通機関を利用していないが、可児市の高齢化を見据えた将来像を知りたくて参加。 ☆八百津町では車がないと生活がとても不便。 ☆若葉台では時間が掛かるのでバス利用者は少ない。 ☆公共交通を利用したことが無い。姫治の団地は若年層が多いので、自家用車移動が主流。 ☆可児市は交通利便性からみて住環境が悪い。 ☆名鉄電車新可児線に特急が無くなり名古屋勤務者がとても不便になった。 ☆コロナ後の名鉄電車時刻表改正で名鉄のイメージが悪くなった。 ☆バスと電車の連絡が悪い。 ☆バスをよく利用するが、便数が少なく帰り便が無く時間が掛かる上に料金も高い。 		

- ☆高齢化先進国で運転免許証返納した人は認知機能が低下することが実証され、我が国の様に返納促進一辺倒は如何か。
- ☆バスを小型化、バス停を増やして乗客を増やした事例がある。
- ☆西可児を電動車椅子の町にしてはどうか。歩道の無いところは整備、段差などの解消、利用者の権利確保。
- ☆街路樹、歩道の傾斜改良など通行帯の確保が必要。
- ☆電動車椅子で転倒したが助けてもらえず、手放した。
- ☆デマンドバスは30分前の予約、指定場所に行く手間で不便。
- ☆若葉台は1日15便くらいの無料送迎サービスがある。
- ☆西可児には有料の送迎システムがあり通院、買い物などに使える。
- ☆高齢化を見据えた予算の優先順位、再評価を行うべきだ。

2G 進行係：天羽 副議長

記録係：高木 委員

《令和5年度当初予算審査の報告について》

- ・暮らしやすいところではあるが、ワクワクする場所がない。
- ・近隣から来られる方によく聞かれるが、可児市の観光の目玉はなに？
- ・観光の中心をどこにしようとしているのか？ 明智、兼山、土田？
- ・イベントを増やしてほしい。夏祭りはあるが夏以外の季節での行事が寂しい。
- ・子どものために越してきた。当時は自然豊かなところだった。
- ・ターゲット層に合った商店の集まりを作っては。他市はゾーンが出来てる。
- ・名城大学撤退の検証を。大学ー西可児駅間、何もない。

《テーマについて》

- ・さつきバスは土日の移動が困る。特売日の日曜に動けず、買い物難民になる。
- ・住んでいる地区にはバス路線がない。デマンドを使ってと言われても、使い方がよくわからない
- ・以前利用していたKバスも少なくなった。
- ・公共交通のみでは市外への移動にアクセスが悪い。
- ・多様化の中、個々の生活スタイルに合わなくなってきている。
- ・さつきバスの便が悪い。好きな所に行ける便が無い。
- ・思い切った改革が必要。一時的にも大きな予算を組んでもやるべき。
- ・免許返納者がよるこべる運行を考えてほしい。
- ・自主返納を勧めている自治会には無料パスなどの自治会特典を付けては。
- ・イベント連動企画を実施しては。バス利用者には会場で特典を付ける。
- ・携帯がないとデマンドも利用できない。
- ・公共交通全般の認知度が低いと思う。もっと宣伝をしては。
- ・名鉄御嵩線存続の活動をしている中で、4月からの減便は痛手。
- ・団地から病院やスーパーへの直行便を作してほしい。

- ・さつきバス、一回だけの乗り継ぎでは不足。すべてワンデーパスしては。
- ・タクシーに月間いくら使うのか調査して、バス利用に換算した額と運賃を比較するなど、適正運賃の検証を行ってほしい。
- ・電話予約と言うだけで敬遠しがち。
- ・5年後には返納者増えると予想される。今から本数増やして、便利であることを伝えていくべき。
- ・デマンドでも路線でも待つ時間は変わらない気がする。
- ・自転車は転倒のリスクがあり、使いたくない。
- ・シニアカーは路面の凸凹やわずかな段差でも使いづらい。特に踏切が不安。
- ・普段バスを見かけないのに、返納後バスに変えてと言われても、想像が出来ない。
- ・駅前ロータリーに「ローズガーデン行のりば」の様な各観光施設に行くのに迷わない様な大きな表示をしてほしい。
- ・電車、バスのみならず、自家用車での移動も含め、交通手段全般で議論することが大事。

3G 進行係：川上副委員長

記録係：中村委員

《テーマについて》

- 1 コミュニティバスは重要で拡充してほしい。長坂地区は東鉄があるのでコミュニティバスもデマンドバス対象外で走ってない。1時間半に1本のバスを利用するのは不便である。東鉄との連携を含めコミュニティバスの導入を考えてほしい。
- 2 東鉄バスの利用券の購入場所がわからない。出しやすい金額（現在190円）にしてほしい
- 3 久々利はデマンドバスを利用していて割と便利である。バス停が遠く移動のお願いをしたが承認してもらえなかった。バス停の移動はもっと柔軟にできないか。移動支援サービスの検討をしている。
- 4 可児市は、予算的には公共交通に関しどの程度まで投入するのか。曜日、時間帯を含め予算の組み換えを考える。
- 5 帷子地区の東鉄バスの本数が減少するのは利用客が減少したためと思われるが、市の補助に限界があるのであればボランティアへの補助制度を確立し助成したらどうか。
- 6 誰のための公共交通か。朝は通勤・通学、昼間は通院・買い物に利用する人が多い。市民の生活に密着したものでなければいけない。終了時間が早く帰りのバスがない。
- 7 名鉄御嵩線はいつまで運行するのか。通勤・通学に特化したほうが良いのではないか。バスの運行を検討したほうが良いのではないか。

4G 進行係：伊藤健二委員

記録係：伊藤壽委員

《テーマについて》

- ・長坂地区は、名鉄バスが走っていたが、今は東鉄バスが1日、7本であ

る。

長坂の奥からの買い物は、駅への行きはあるが、帰りはバスで帰れないので、タクシーしかない。バスの本数を増やして欲しい。

- ・虹ヶ丘からの名古屋へのバスの直行便があるから良いが、電車の場合は、犬山駅での乗り換えがある。また、運賃の値上げの話もある。そして、車の移動なので電車の使い方が分からない人がある。普段使いしないので廃止は当たり前である。
- ・Kバスは、客が乗らないので廃止して欲しい。デマンドの方が良い。考え方を変えないと駄目である。
- ・バスのドライバーは不足している。便数が増えた場合、ドライバーの確保ができるのか、詰めないといけない。
- ・電話で予約バスは、老人は予約を忘れることがあり、乗れない。定期運行なら乗れる。
- ・岐阜科学医療大学のスクールバスに混乗できないか話をしているが、学生は犬山駅からの利用が多く、西可児駅からは徒歩が多く、西可児駅からのスクールバスは、今は廃止されているが、学生の利用時間帯に合わせ、使える便があれば使って良いとの事であった。いずれにしても、さつきバスを走らせることが大事である。桜ヶ丘地区では、東鉄バスとさつきバスが走っている。
- ・高速バスが名古屋、可児間を走っているが、栄のバスターミナルから可児への客は、桃花台までは多いが、可児までは少なくなるが、そこをどうするか課題である。西可児から名古屋へのバスは、リトルワールドがあるから本数がそこそこある。
- ・電車は、犬山駅の乗り換え時間が少なく、特急に乗ろうとすると駆け足乗車となる。
- ・名鉄でなくJRになるが、多治見駅で太多線の接続が悪い。東京からの帰りは、名鉄かJRの選択になる。
- ・東京、名古屋方面へ行く場合は、家族が犬山駅まで送る。
- ・電車が遅れた場合、乗り継ぎに困る。
- ・名鉄は、新可児駅で終わっていて明智駅方面への直通が無い。
- ・西可児の団地は古く、高台にあり、売り出しの時には、バスを走らせるという話がありバス停もあるがバスは走っていない。
- ・ローズガーデンへのバスを別に走らせるべきである。外国人招致のチャンスであり、日本人メインで行っているのを考慮し、観光客誘致を進めるべきである。
- ・安全に自転車で移動をするためサイクリングロードの整備をして欲しい。
- ・若葉台の送迎ボランティア アッシー君があるが、こうした取り組みを広げてはどうか。
- ・市内の便利の良い所へ移住を進めたりする動きはあるか。
- ・文化創造センター、野球場などに係る経費を、公共交通の経費に回せないか。
- ・意見等に対する回答を頂きたい。

総じて、不便に感じているという意見が大変を占めていたように思う。

後期高齢者の方からの「免許返納するんじゃなかった。移動手段が不便で、移動範囲が狭くなっていて、人生の楽しみが随分と減ってしまった。」という声には、公共交通で出来る範囲での対処が必要であると考えます。

「運転が脳トレになっている。運転している人の方が健康寿命は長い。」という意見も見過ごすことはできないと考えます。全国的に、後期高齢者による交通事故は度々ニュース等で報道されているが、まさか自分が事故を起こす当事者になるとは思っていないから、運転をして、結果的に事故に繋がっていると考えられる。運転の代わりとなる脳トレの普及や、健康寿命を長くできるような施策は本市において既に実施されていると思うが、今後も拡大が必要であると考えます。

全国的な傾向と同様に本市においても高齢化率の上昇が見込まれているため、市民の交通手段については重要な課題として認識し、今後も取り組んでいく必要があると考えられる。

令和5年5月18日

可児市議会議長 様

可児市議会報告会開催要領の規定により提出します。

建設市民委員会 委員長 松尾 和樹



②「考えよう！これからの地域防災」

(総務企画委員会)

開催日時	令和5年5月14日(日) 午後2時00分～3時30分	開催 会場	市福祉センター ホール
参加者数	自治連合会役員 14人、一般参加者 3人、議員 7人 (計 24人)		
実施内容	テーマ「考えよう！これからの地域防災」		
質疑および 主な意見等	<p><グループ1> 進行：山田 喜弘 委員長 / 記録：天羽 良明 委員</p> <p>【議会の活動報告に対して】</p> <p>○議会からの提言について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国で25万人の不登校がある。蘇南中を例にすると80名程と想像する。 ・外国籍の方に安心して日本で生活してもらうため意見交換をした。 ・今渡地区センターで外国籍グループに声をかけイベント参加を依頼した。 ・美濃加茂に近いので、土田・今渡・下恵土には多くの外国籍住民がいる。 ・フレビアの活用は有効だった。 <p>→議会としては、フレビア関係者や外国籍の方と意見交換会も行ってきたが、引き続き現場の声をききながらサポートを継続していく。</p> <p>【テーマに関する意見】</p> <p>○意見のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「住民がパッとみて」わかる防災情報を住民に届けて欲しい。 ・防災無線の火災放送等(サイレン・音)復活の検討をして欲しい。 ・消防団員とOB(高齢者)で連携して防災をする時代にきている。 ・中学生を防災訓練に参加させるため市に働きかけて欲しい。 <p>○地域ごとの意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災意識をいかに高めるかが重要で、簡単なパンフを作成して配布し、家庭でできる防災を呼びかけた。また、今後もフォローし再利用する。水、ガス、電気が止まった時に大丈夫かを住民に考えてもらうことが重要だと思う。(桜ヶ丘) ・防災無線で火災放送がなくなった。非自治会員も含め住民避難の呼びかけのため議会で考え直してもらいたい。(広見) ・地元の火事は、団員OBが行く、消防団が到着したら変わる。消防OB団を結成するまでに至っていないが今後のために補助支援に期待したい。先日深夜に火事があったが、朝まで知らなかった(朝メールを見て驚いた)サイレンが必要だと思う。(今渡) ・消防団員が頑張っていることを評価して、なり手を増やしていきたい。継続していくテーマである。(中恵土) ・幸い2つの分団、10人ずつ集まった。地域で2度、日中に火事があった。 		

消防署が来るまでの準備や、消火後の再燃防止のための見回りをしている姿があった。防災の資料が山ほどある。市のものをすべて理解することはできない。(春里)

<グループ2>

進行：大平 伸二 副委員長 / 澤野 伸 委員

【議会の活動報告に対して】

- ・外国籍の住民との意思疎通が難しく、ごみ収集のトラブル等がある。防災に関してもどのように伝えたらよいのか、また翻訳文章の作成などの協力は得られるのか。
→可児市国際交流協会（フレビア）で対応してもらえ。行政においてもしっかり対応します。

【テーマに関する意見】

- ・外国籍住民とのコミュニケーションをいかに取っていくのか課題ではあるが、関わり合いの中で防災力向上に繋がりたい。
- ・幼少期から地震は怖いものだと思えることが大事だと思う。地域で地震体験車を用意して多くの子ども達に体験して貰った。十分成果があると思う。
- ・自分の身は自分で守る、自助をまずはしっかり整えなければと考える。「いま備えよう！」というチラシを使って啓発活動を行っている。
- ・自治会はあくまで自治会員のための組織であるので、全市的にカバーするような活動は出来ないし、無理がある。自治会に加入していない方への対応は行政もしっかり考えてほしい。
- ・常に顔の見える近所づきあいが地域連携の最たるものである。高齢者の一人暮らしも増える中、見守りも含めこれからの課題である。
- ・ハザードマップの利用をもっと考えたい、どこに避難所があるのか、自分の地域の危険箇所はどこなのか、把握することは大切であるのでハザードマップの活用を促進したい。
- ・地域ごとに状況は異なるが、地域の特性を鑑み、避難所として集会場の利用についても考えたい。また企業との連携も必要で、消防団の団員不足解消に協力して貰う手立てを考えなければと思う。
- ・防災士の方々の活躍の場がもっとあっても良いのではないのか。活動について再認識してみてもいい。

<グループ3>

進行：板津 博之 委員 / 記録 奥村 新五 委員、亀谷 光 委員

【テーマに関する意見】

- ・自治会加入者と未加入者に対する防災対策や行動・連絡等に問題がある。
- ・自治会に入るメリットが無いと言われる。地域での全体行動が取りづらい。
- ・自治会で防災の知識があり行動できる人を育てなければならない。
- ・倉庫や個人宅の備品リストが作成できれば、必要な時に集めて使用できるのではないかと。機材マップの作成。(電ノコ・発電機等)

- ・最近はキャンプ用品が充実している、テントを持っていれば自宅でも利用できる。
- ・下恵土には40近くの井戸が有り、検査の結果10ほどの井戸は飲料水として使用できる。
- ・桜ヶ丘では1年を掛けてアンケートを取り、自治連が防災ハンドブックを作製し各戸配布した。
- ・備蓄品で賞味期限が有るものに対しては、子ども食堂に提供して感謝されている。
- ・消防団員が集まらない、会社の考えも時代とともに変化している、地域とともにこの問題を考えないといけない、消防団員になれば何か特典を与えるような企業が多くなる必要がある。
- ・可児市には多くの団地があるが地質調査が必要ではないか。
- ・防災士が災害時に行動できるのか疑問である。
- ・地域住民目線の防災対策を目指している。(土田)
- ・地区的に災害が身近に発生する可能性が有る。(久々利)
- ・各務原市にて防災関連の体験できる場所が有り、先ずは自治会長が体験するつもりである。(土田)
- ・地区センターが避難場所に指定されているが、そのルート上の道が狭いと長年進言しているが改良されていない。(下恵土)
- ・地震が発生した場合、色々な事情で避難所に行けない人等が多く出ると考えられるが、自宅での避難行動を考えることは必要である。多くの人が避難所に行くと収容ができない。(土田)
- ・久々利は7地区に38名の防災士がいて独自の防災訓練をしている。
- ・近く静岡に防災研修に40名で行く。(久々利)
- ・防災訓練はするが2,700人中100人と参加者は少ない。団地内に自主防災会が有るが、自治会に対して要求が多い。(光陽台)
- ・備蓄倉庫のリヤカーなどは地区イベントに利用している。(姫治)

<全体のまとめ>

・自治連合会役員の参加が大半であったので、日頃から地域住民に対し、防災意識の向上に努められていることが理解できた。また、消防団員の確保に苦慮されていることなど参加者の意見を踏まえ、今後委員会で検討する事項として主に以下の5点が挙げられる。

- ① 自治会未加入者への防災対策
- ② 防災無線による火災放送の再考について。
- ③ 消防団員になるメリットを受けられるよう、さらに企業が協力してもらえる仕組みについて。
- ④ 防災士の活用について考えていくこと。
- ⑤ 災害時の井戸水を活用した代替飲料水の確保について。

令和5年5月18日

可児市議会議長 様

可児市議会報告会開催要領の規定により提出します。

総務企画委員会 委員長 山田 喜弘



③「高齢者のあんき（安心）のために」

（教育福祉委員会）

開催日時	令和5年5月15日（月） 13時30分～15時00分	開催 会場	福祉センター
参加者数	市民（民生委員・児童委員）など 22人、議員 8人（計 29人）		
実施内容	テーマ「高齢者のあんき（安心）のために」		
質疑および 主な意見等	<p>概要</p> <p>○3グループに分かれての懇談</p> <p>1班 川合議員（進行）、中野議員（記録・発表）、市民など8人</p> <p>2班 渡辺議員（進行）、勝野議員（記録・発表）、林議員、市民など6人</p> <p>3班 野呂議員（進行）、天羽議員（記録・発表）、市民など8人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・議会活動について説明（各班進行係） ・「高齢者のあんき（安心）のために」について意見交換 ・グループの意見まとめ <p>○全体での意見共有（記録係から発表）</p> <p>議会活動報告に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路維持予算について、高齢者で免許返納後にシニアカー等で歩道を安心して利用できるよう整備して欲しい。高齢者が災害時に安心して避難できる事も「あんき」の条件である。 <p>テーマ：高齢者のあんき（安心）のために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人と人、人と支援をつなぐのが民生委員の仕事。人と人のつながりが希薄になっているので、将来の人選が大変だと感じている。自分も長年やっているの次なり手を自治会が探し選考しているが、高齢で退会した非自治会員も支援の対象なので自治会員の目が気になる場面もある。 ・民生委員・児童委員は60～65歳で始めないと2期3期と継続しづらいと思われる。しかし現状ではそれが困難である為、今後も成り手不足の加速が予想される。市は高齢者福祉をより体系的に捉えて長期的なビジョンで対策を講じてもらいたい。 ・民生委員・児童委員の仕事は大変ではあるが、報酬が増えれば良いというものではない。しかしながら、成り手不足解消の手段としては一考の余地があると思われる。 ・外国籍や高齢を理由に非自治会員が孤立しないようにサロンが立ち上がっているが、年数が経つとサロンまで来られない人が出ている。民生委員で送迎をやるわけに行かず困っている。 ・民生委員として、他国の語学を習得すべきか等、外国籍市民のサポートをどこまで民生委員が支援すべきか整理する必要がある。 ・外国籍市民の自治会加入については、メリットを伝えるのが難しい現状がある。 		

- ・すべてボランティアに頼らず、有料でもゴミ出しなど支援を求められたら支援できる体制の方がいいのではないか。
- ・地域支えあい活動ひだまりが最近設立された。健康で生きがいを持って、買い物支援やゴミ出しを行っている。
- ・ゴミ出しの分別が進むのはよいことだが、逆に簡易的に捨てられる制度も議会として検討してほしい。
- ・90才以上のご夫婦が利用しているゴミ置き場が交通量の多い場所にあるため、事故にあわないか心配している。市の特例で自宅の外に置いておけば回収してくれるようにできないだろうか。
- ・語学で外国籍市民のサポーターをしているが、ゴミ出しのマナーは、ルールを説明して理解がされれば、適切に出せていると信じている。
- ・ゴミ出しについては、地域支えあいポイント事業でサポートが可能な場合があるのでPRしていくべきだと思う。
- ・外国籍の方にも、自治会があって、ゴミ出し、防犯灯でまちが明るいとか地域の生活環境が維持されていることを伝えるべき。しかし、ゴミの出し方が細かくなりすぎると、外国籍のみならず、高齢者も対応できないケースも想定される。将来的には、ゴミの分別を簡易的に許容していくことも検討が必要ではないか。
- ・自治会未加入の高齢者への対応が難しい。自治会加入のメリットが少ない。(役ばかりがまわってくる、作業が多い等)
- ・自治会は近所の繋がりの中で重要であると考え。困った時に助け合うのが自治会であるにも関わらず、未加入であることは残念である。
- ・団地に住んでいるが、高齢になり免許を返上した場合、さつきバスは非常に不便であるため、その後の日常生活に支障が生ずる。行政として何とか対策を考えられたい。
- ・東農病院へ市として多額の補助をしている以上、市民が急病等の緊急時に専門的な医療機関へスムーズに搬送されるようなシステムを構築し、市民に周知されたい。
- ・民生委員は玄関先までの訪問が原則であるため、家の中に入ることは非常時以外許されていない。訪問しても留守のような場合は別に住んでいる娘さん等に連絡し、安否確認をしているのが現状であり、歯がゆさを感じる。
- ・独居の方の異常を早期発見できるような、緊急通報システム以外のシステムづくりを検討されたい。
- ・民生児童委員の活動が市民に理解されていないと感ずるため、市民に一層理解していただけるよう、周知を強化されたい。
- ・民生委員・児童委員の半数以上が新規の為、高齢者の背景としての家族構成や緊急連絡先等を把握する事が重要となる。
- ・市の担当窓口よりも地域包括支援センターの方が便利であるが、帷子に関しては人員不足の為に不在の時が多い。早急に改善してもらいたい。
- ・高齢者の家族が土日に来て地域包括支援センターは休みであり、市の休日対応も周知不足である。
- ・民生委員・児童委員を長く務めていると情報量が増えてネットワークが広がる反面、多忙になってしまう。
- ・Kマネーで僅かなお礼しかないが、人が人を支える活動がある。支えたい市

民、支えられるべき高齢者に制度の存在を伝えてほしい。

・今回は良い機会であった。よって、この懇談会で得た意見を議会で共有し、市への提言だけでなく、市民として行政・議会が掘り下げて取り組む姿勢を見たい。

令和5年5月19日

可児市議会議長 様

可児市議会報告会開催要領の規定により提出します。

教育福祉委員会 委員長 川合 敏己

